

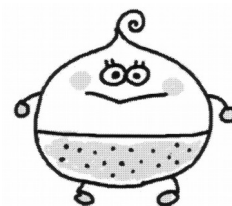
HDM推進会（第 36回）／ごみゼロネット推進会（第 58回）議事録

開催日： 2013 年（H25 年）3 月 13 日（水）10:00 ～ 12:10

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、平林、大橋、杉本、川村、山本、桐生（作成）

議 題：



川村幹事はご用事で今回は出られないが、会議開催通知に次のように

当日のテーマ予定を列記された。□ 2/28 のごみ特委での審議内容と今後の対応／□平林さんよりの提案協議／□その他 報告、情報について。以下、その順序で討議した要旨を記録する。

1. 2/28 のごみ特委での審議内容（加藤）

- 市ごみ対策課から「HDMに囚われることなく……発展的解消を考えたい」との問題発言があった。
- これに対し、「積み上げてきたものある筈。実現可能なものを検討すべき。モデル地域決めてやれ」（森戸議員）／「同時並行的に都市部でやれる方式ある筈」（片山）／「どういうことだ。おかしいのではないか」（板倉議員）という厳しい追求質問があり、ごみ対策課は発言を後退させて、「次のHDM導入検討会を3月中に開催する」という形で答弁を収めた。
- 片山議員から、「学校持込処理のリース機で期限が来るものが2、3ある。これらをHDM機に切り換えられるのではないか」との提案もあった。

2. 次回以後のHDM導入検討会での対応方針（全員）

- 当会側のスポークスマンは加藤氏に一本化する**（ごみ対策課が度々当会側が必ずしもHDMで統一されていないと議会で指摘することへの対策）
- フォレスト社の竹井氏は「25 kg / 日機は実証試験不要」「設置場所が決まらないから、安全をとった見積となった。具体的な場所や対応が絞り込まれば、見積はかなり低減できる」と言っている。シャノメ跡地に近い中町親愛会が引き受けることは可能」「竹井氏は『過大予算の原因はオーバースペックの試験項目を実証試験に繰り込んだため。こんな例は見たことがない』とも言っている。ごみ対策課側の意見でこうなった。軌道修正の必要あり」（加藤）

3. 平林氏提案の環境省への補助金申請に関する討議

平林氏から提案あったのは「H25 年度 CO₂ 排出削減対策強化誘導技術開発・実証事業公募」である。当会は募

集要項の条件を満たしていない。また、時間的に無理があるので、提案を取り下げる。（平林）

4. その他、報告・情報

- 小金井市の生ごみ堆肥と、久喜市のHDM処理堆肥の肥料としての成分分析結果を日本土壌学会 副会長の伊達昇氏に評価してもらった。「何れも肥料として使用するに全く問題もない」との評価を受けた。（加藤）
- 「日野市の焼却炉の処理能力290ト/日は過大でないか」（山本）…具体的に数値を挙げて試算した上で、「確かに過大である。広域支援等を視野に入れているようだ」（加藤）
- 4月から期間 10 年の「ごみ処理基本計画」を作る。ごみ対策課は 1800 万円の予算を取り、コンサルタント会社に丸投げする。（加藤）…「宛先を変えただけのどこでも見るような模範的な基本計画書が出るだけである」「コンサル会社はダイナックス社の時のように、環境部の意向を聞きながら、それに合わせて書くだけである」「市民が参加する場を作りたい」「それを陳情で出したらどうか」「町田市が良い例で、市民が基本計画を創り上げた」等の意見が出た。

上

次回打合せ： 4月10日(水) 10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ
1/1